競　技　注　意　事　項

1. 競技規則について

本大会は 2022 年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項によって実施する。
また、新型コロナウィルス感染症対策は、日本陸上競技連盟「陸上競技活動開催のガイダンス」に準じて行う。

2. 練習場及び練習について

練習は、補助競技場および本競技場の許可された場所を使用し、器具を用いた練習は認めない。
本競技場での練習は、二日間とも午前 8:00 までとする。
補助競技場での投擲練習については、危険防止のため禁止とする。
補助競技場での練習は、1~3 レーンは周回　4~6 レーンは直線(スタート)　7,8 レーンはハードルとする。

3. 招集および招集の方法について

（1）招集所は競技場第 1 ゲート付近に設ける。
（2）招集開始時刻は、その競技の開始時刻を基準とし、下記の通りとする。
　　トラック　競技　招集開始　25 分前　招集完了　15 分前
　　フィールド競技　招集開始　40 分前　招集完了　30 分前　（棒高跳は招集開始 60 分前～完了 50 分前）
（3）競技者は出場種目の招集時刻がきたら招集所で点呼を受ける。
（4）招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技を棄権したものとする。
（5）競技を棄権する競技者は、事前に招集所に申し出ること。
（6）他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨を招集所に申し出て出場を確認する。
（7）招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。

4. アスリートビブスについて

（1）全ての競技者はアスリートビブスを自分で用意し、ユニフォームの胸・背に確実に付ける。跳躍競技の競技者は、胸又は背のどちらかに付けるだけでよい。
（2）短距離種目(800m 以下)の腰ナンバーカードは、各自で用意すること。
（3）長距離種目(1500m 以上)に出場する競技者は、出発地点で競技者係より、レーンビブスと腰ナンバーカード（主催者が貸与する）を受け取り、短パンの右腰やや後ろに付ける。ゴール後は回収箱に戻すこと。

5. 競技の抽選及び番組編成について（レーン順、試技順）

（1）800m より短いトラック競技の予選は競技運営上 1~9 レーンを使用する。レーン順・フィールド競技の試技順は、プログラムに記載した順による。
（2）トラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たとき（以下同タイム者という）は、下記の方法で決定する。
①100m・200m・400m・100mH・110mH・400mH・4×100mR 競技において次のラウンドへの進出者を決める場合、写真判定員主任が 0.001 秒単位の実時間を判定して出場者を判定する。それでも同成績者がありレーンが不足する場合は、同成績者または代理人によって抽選する。なお、アナウンス後 15 分を経過しても当該競技者あるいは代理人が大会総務に来なかった場合は、主催者が代行する。
②800m 以上の競技において、同タイム者は、次のラウンドに進むことができる。

6. 競技について

（1）競技運営上、短距離走の走路をバックストレートフィニッシュに変更することがある。その際、招集開始時刻の 1 時間前には放送を通じて連絡を行う。
（2）短距離走のフィニッシュ後は、競技者の安全のために自分のレーン（曲走路）に沿って走り終わること。
（3）スタートの合図は英語で行い、各レースでの不正スタートをした競技者は1 回で失格とする。
（4）リレーオーダー用紙は、予選・決勝とも第 1 組招集終了時間の 1 時間前までに競技者係に提出する。
（5）トラック競技では予選上位 16 位までの記録で決勝へ進出する種目もある。その際、9 位から 16 位を B 決勝として実施する。各種目 B 決勝を先に行い A 決勝を後に行う。表彰は A 決勝出場者からとする。
（6）5000m の 1 組目は、男女同時スタートとする。

（7）5000mW は、男女同時スタートとし、競技運営上、男子 30 分．女子 35 分以内に 4600m を通過出来なかった者は、競技を中止させ、失格とする。
（8）棒高跳の競技者は、自分の希望する支柱の位置を所定の用紙に記載し、跳躍審判員に届け出る。
（9）フィールド内での投てきおよび跳躍の練習は、必ず審判員の指示に従う。競技中フィールド内での練習は絶対に行わないこと。
（10）２種目同時に出場する競技者は、当該競技審判主任の判断により、フィールド競技について試技順を変更することができる。試技順を変更しても試技時間に間に合わなかった場合は、「パス扱い」となる。
（11）競技結果や番組編成は掲示しない。大型映像およびアスリートランキングにて確認すること。

7.フィールド競技

（1）予選を行う競技の予選通過記録は、下記の通りとする。
男子走幅跳　　6m80　　男子やり投　50m00
（2）三段跳の踏み切り板は、砂場から男子 11m、女子 9m とする。
（3）走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種　　目	練習	1	2	3	4	5	
走高跳男子	1m45	1m50	1m60	1m70	1m80	－	1m80 以降 3cm 刻み
走高跳女子	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m55 以降 3cm 刻み
棒高跳男子	2m60	2m80	3m00	3m20	3m40	3m60	以降 10cm 刻み
棒高跳女子	1m60	1m80	2m00	2m20	2m40	2m60	2m80 以降 10cm 刻み

（4）第 1 位決定のバーの上げ下げは、走高跳で 2cm、棒高跳では 5cm とする。天候その他の条件によって、変更する場合は当該審判長が決定する。

8. 競技場内への入退場について

（1）競技場への入退場は全て、競技役員の指示により行う。競技者以外はトラック・フィールドに立ち入ることはできない。
（2）トラック競技における競技者は、第 2 ゲートから退場し、メインスタンド前は通らない。
＊バックストレートフィニッシュの場合、ゴール後はそのままトラックを進み、第 1 ゲートより退場して、競技場玄関前を通り、第 2 ゲートより入場してスタート地点に戻る。(バックスタンドは通らない)
（3）フィールド競技における競技者は、当該競技役員の指示に従い退場する。
（4）選手同士の密を避けるため、選手への付き添い等は行わない。

9. 競技用具について

（1）競技に使用する用具は全て、主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳用ポールは個人所有のものを使用する。ポールについては、その競技開始前に跳躍場で跳躍審判員の検査を受け、許可されたものを使用できる。（やりも個人所有のものを認める。ただし、本部前にて競技開始 1 時間前迄に検定を受けること。）
（2）フィールド競技で、助走に使用するマーカーは主催者が用意する。使用し終わったら、競技者自身で取り外し、所定の場所に返納すること。(マーカーの数は既定の数を超えないこと。)
（3）競技で使用する滑り止め（炭酸マグネシウム等）は各自で用意すること。競技場では用意しない。

10. 競技用靴について

（1）競技場は全天候型舗装であり、スパイクピンの数は 11 本以内で、長さは 9mm 以内とする。走高跳とやり役では 12mm 以内とする。
（2）競技用の靴は、TR5.2 を適用する。ただしフィールド用の靴底の厚さについてはこれを適用しない。よって記録は国内のみ通用するものとなり、WA への申請も行わない。

11. 表彰について

（1）各種目の選手権獲得者には、賞状と選手権賞を授与する。
（2）各種目 1 位のみ表彰を行い、2 位から 8 位までの入賞者には賞状を授与する。(エントランスホールより自ら持ち帰る)
（3）表彰式は、当該競技終了後、直ちに行う。

12. 応急処置について

大会期間中に競技場で発生した傷害や疾病は、主競技場内の医務室で応急処置を行うが、その後の責任は負わない。

13. 開門及び本競技場開放時間について

(1) 各駐車場　　6:00開門

(2) 本競技場・補助競技場　6:30開門

※３密を避けるため開門するまでゲートの前には集まらないこと。

※お願い　開門後、会場設営を行うので、顧問の皆様のご協力をお願いします。

(3) 本競技場開放時間

1日目　9月10日（土）　7:00～8:00

2日目　9月11日（日）　7:00～8:00

14. その他

(1) 競技場内には規定外の商社名・商品名を付けたスパイク袋またはバックを持ち入れてはいけない。

(2) 競技の進行上、競技開始時刻が変更になる場合があるので、放送に注意すること。

(3) 盗撮行為等防止のため、競技場スタンドに撮影禁止区間を設ける。(撮影禁止区間および撮影を制限する時間帯はプログラムを参照すること)また、試合内容を SNS 等(YouTube を含む)への投稿を禁止する。

(4) テント設置の場合は本競技場敷地内または、補助競技場内とし、公園内には設置しないこと。設置の際各自・各チームで責任を持って、突風でテントが飛ばされたり、倒れたりしないように、確実にロープ等で固定すること。また、映像装置のカメラ付近への設置はしない。（会場図参考）

※競技１日目終了後、希望するチームにはテントをバックスタンド下のダッグアウトにて保管することができる。但し、自己責任にて保管すること。

(5) ゴミの始末については、各自・各チームで責任を持って行い、競技場にはいっさい捨てないこと。